

目指す学校像	1 明るい学校 2 活力ある学校 3 開かれた学校
--------	---------------------------

重点目標	1 「真の学力」の育成を目指した基礎学力の向上 2 生徒指導・教育相談・特別支援の連携強化による児童の心のサポートと教育環境の充実 3 学校運営協議会での目指す児童の姿について、熟議を重ねた具体的な目標の設定 4 教職員の授業力の向上と健全な職場環境づくり
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○学校評価の児童への質問「学校や家で自分から進んで学習に取り組んでいますか」の肯定的回答は83.7%であった。 ○さいたま市学習状況調査において、市平均を下回っている教科がある。 〈課題〉 ○児童が、反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分であった。 ○さいたま市学習状況調査において、質問「国語(算数)の勉強は好きですか」の肯定的回答は80%程度である。	・学びの個別最適化・探究的な学習に向けた情報端末の活用と授業改善 ・主体的に学ぶ児童の育成	① SSDB等を活用し、児童の学習のつまずきの早期発見と個に応じた指導の実施。 ② ドリルパークやスタディサプリ等のICT教材の活用を進め、課題の反復を行う。	①学校評価質問「先生は勉強をわかりやすく教えてくださいか」の「そう思う」の回答を85%以上とする。 ②学びの指標の質問項目「ICT活用」の向上					
2	〈現状〉 ○さいたま市学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした割合は、全学年で約85%以上だった。 ○児童が充実した学校生活を送れるように教員が日々児童の様子を把握、適切な対応を意識した。 〈課題〉 ○児童一人ひとりに寄り添った対応ができるよう実態を把握し、より適切な対応ができるようにしていく必要がある。 ○学校が児童にとって居心地が良い場所となるような環境整備が必要である。	・児童一人ひとりの支援に向けた生徒指導・教育相談・特別支援の連携強化 ・毎月の安全点検への迅速な対応並びに環境整備	①おはようメーターや心と生活のアンケート等を活用し、児童一人ひとりの把握し、個に応じた対応ができるようにする。 ②毎月の生徒指導・教育相談部会やケース会議などSC、SSW、さわやか相談員と連携し、児童への継続的な支援を行う。	①学校評価「みんなと仲よく、協力して過ごしていますか」の「そう思う」という回答が80%を超えているか。 ②学校自己評価に係る教員アンケートで「生徒指導、教育相談、特別支援」の質問に関する肯定的回答の割合が90%以上になったか。					
3	〈現状〉 ○情報アプリの活用により、学校だより、学年だより等の文書が確実に保護者に届くようになった。 ○コロナ禍よりも保護者、地域の方に来校していただく機会を増やすことができた。学校評価の質問「授業参観、学校公開」に関する肯定的回答は96%であった。 〈課題〉 ○児童の声を聞き、児童を中心においた協働活動を行う必要がある。	・目指す児童の姿を地域で共有するための教育活動の公開と情報発信 ・学校運営協議会の確実な実施と熟議による家庭、地域、学校の連携強化	①学校安心メール、学校・学年だより等を活用し、めざす児童像に関わる記載や児童の活動の様子について積極的に情報発信を行う。 ②町探検の保護者への協力呼びかけや個人面談や授業参観や学校公開の参観の機会を適切に設ける。	①学校自己評価に係るアンケートで児童、地域、保護者の「めざす児童像」に関する9項目の肯定的回答の割合が80%以上になったか。 ②学校自己評価に係る質問「学校は地域やPTA、家庭と連携している」の地域、保護者の質問に関する肯定的回答の割合を90%以上になったか。					
4	〈現状〉 ○研修主任やエバンジェリストを中心に教員の実態に応じた研修を自主的に行うことができた ○週に1回、学年会を行うなど教職員間でコミュニケーションはとれている。 〈課題〉 ○学校評価における働き方改革に関する肯定的回答は約78%であり、業務改善をより意識していく必要がある。	・教職員の授業力の向上と健全な職場環境による目指す教師像の具現化	①授業改善にエバンジェリストによるICT活用に関する情報提供を行う。 ②業務の効率化を意識するため、ノー残業デーを定期的に行う。	①学校自己評価に係るアンケートで教員の「研修」の質問に関する肯定的回答の割合が90%以上になったか。 ②学校自己評価にかかるアンケートで教員の「学校は働き方を推進している」の質問に対する肯定的回答が85%以上になったか。					